

教育事業

青少年の体験活動等の重要性の普及・啓発に関する事業

「第39回さんべ祭」

1 趣 旨

三瓶山北の原地区の5施設が軸となり、地域の人々と密接な連携のもと事業を展開する。また、テーマに沿った事業をとおして、参加者の三瓶地域への愛着を引き出し、引いては三瓶山周辺地域の活性化を図る。

2 テーマ

「みんなあつまれ!! サンキューサンベ!」

参加施設の強みである「体験」「食」「健康」を活かした企画を展開し、参加者が三瓶地域の魅力を知り、三瓶を大好きになってもらう。「みんなあつまれ!!」には、三瓶地域の様々な魅力を集めた企画を展開することと、「さんべ祭」を通じて、様々な家族が三瓶地域に集まり、世代を超えた交流が生まれる契機としたいという願いを込めた。

当該イベントは今回で第39回目を数える。三瓶地域の魅力を生み出す「自然・人・もの」や、三瓶地域を訪れる人々への感謝の意も込めて、「サンキューサンベ!」とした。



3 事業の概要

- (1) 期 日 平成29年10月14日(土)～15日(日)
- (2) 主 催 第39回さんべ祭実行委員会 (事務局：国立三瓶青少年交流の家内)
(構成団体) 国立三瓶青少年交流の家、島根県立三瓶自然館サヒメル、SANBE BURGER
三瓶こもれびの広場木工館、大田市山村留学センター、三瓶ウォーク実行委員会、山の駅さんべ(西の原)
- (3) 後 援 大田市、出雲市、雲南市、江津市、飯南町、川本町、美郷町、大田市教育委員会、出雲市教育委員会、雲南市教育委員会、江津市教育委員会、飯南町教育委員会、川本町教育委員会、美郷町教育委員会、山陰中央新報社、朝日新聞松江総局、中国新聞社、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、島根日日新聞社、NHK 松江放送局、TSK 山陰中央テレビ、BSS 山陰放送、日本海テレビ、エフエム山陰、石見銀山テレビ放送(株)
- (4) 参加者 宿泊者 91名 日帰り利用者 4,147名(第1日/2,244名、第2日/1,903名)
- (5) 主な内容 (★体験活動ブース)

国立三瓶青少年交流の家会場	わくわく体験“もりだくさんべ!”	★体験活動ブース ①竹細工(マイはしづくり)②木の葉のスタンプバック ③さんべリンピック 2017 in さんべ祭「遊んで身に付く 36の基本的な動き」 (忍者倒し・キャタピラー・宝運び)④カプラ⑤茶道⑥バウムクーヘン ★宿泊者対象(夜):①カプラ ②絵本読み聞かせ ③天体観察 ④神楽
	さんべSUNSUNビレッジ(三瓶地域協育ネットワーク展示・体験ブース 10団体)	★福間牧場 ★多根神楽団 ★五十猛歴史研究会 三瓶まちづくり委員会 ★やましろ屋 美郷町観光協会 ★カヌーの里おおち 子ご美の里 三瓶ヘルスツーリズム協議会 ★石見大田たぶみ倶楽部
	ステージ企画(出演7団体)	いそたけ保育園、大田小学校ファンファーレバンド部、多根神楽、北三瓶っ子太鼓クラブ、大田ウィンドオーケストラ&大田高校吹奏楽部、PFC(島根県立出雲高等学校ダンス同好会)、あゆみ太鼓 「体験の風をおこそう」運動応援団:ガチャピン・ムックとえりこお姉さん
	さんべ夢ステージ(さんべボランティアによる企画・体験ブース)	★ウキウキ三瓶フレンドパーク(ステージ発表) ★ワクワクサンベクエスト Vol.39(森体験) ★ドキドキ魔女の館(科学実験)

	出店&展示 (17 団体)	大田高校写真部, 美容カイトサロン o a k, 君田折り紙博物館, 松江自然保護官事務所, 大田高校美術部, さんべ木工館, Pure Makeit, フリーマーケット斉藤, miiy, sizuku button, 神楽写真展, なかよし学級, ヘルスサイエンスセンター島根、工房みよん作品展, なみのりマーケット, サザンクロス, Soulages
	物産・工芸品展 (出店 18 団体)	大鍋 (2 日間各 200 食無料提供) しまねの物産・工芸品販売・フリーマーケット
共催施設会場	島根県立三瓶自然館サヒメル	★工作コーナー ★ススキの迷路
	三瓶こもれびの広場木工館	★木のおもちゃで遊ぼう (ドミノ、積み木など)
	大田市山村留学センター	★火おこし体験
	SANBE BURGER	さんべ祭限定特別バーガー販売 くじ引き ~素敵なプレゼントを当ててね!~
	さんべそば祭り	三瓶在来そばを使った十割そば、二八そば販売他
	さんべウォーク実行委員会	★「ぐるっと三瓶くにびきウォーク 2017」 ・三瓶周遊コース (15km) ・木漏れ日コース(5km)
共通	スタンプラリー	5 施設をめぐる企画

4 成果と課題

< 成 果 >

○例年、さんべ祭の期間は宿泊者数が少ないが、今年は宿泊者向けのチラシを特別に作成したり、宿泊者限定の特別企画（神楽の衣装を着る体験やガチャピン・ムックとラジオ体操をする体験等）を実施したりすることで、宿泊者数を増やすことができた。また、今年から新たに連携を図った「さんべそば祭り」をはじめ、数多くの三瓶地域周辺の団体の協力により、多くの家族に様々な体験活動を提供することができた。

< 課 題 >

●全体的に例年を踏襲した展示・発表が多くなっている。来年さんべ祭は40回という記念すべき回を迎えるということもあり、根本的な部分の見直しも含め、内容の検討が必要である。今後リピーターを増やしてためにも、連携団体と協力して企画・展示などの内容を工夫し、三瓶周辺地域の活性化を図る機会としてのさんべ祭全体の魅力アップを図っていく必要がある。



「体験の風をおこそう」運動応援団のガチャピン・ムックとえりこお姉さんによるステージ発表。朝のつどいでは、宿泊者と一緒にラジオ体操を実施した。



もりだくさんべのブースでは、「遊んで身に付く36の基本的な動き」を取り入れた、「忍者倒し」「キャタピラー」「宝運び」などの体験活動を行った。

(担当：事業推進室長 寺戸 真一)